

令和4年度 学校評価報告書（実施結果）

視点	4年間の目標	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価(3月24日実施)	
	(令和2年度策定)		具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	(3月15日実施)	成果と課題	改善方策等
教育課程 学習指導	①生徒自ら課題を設定し、課題解決に向けて主体的に探究する。②グローバル化が進む中で、生徒の活躍できる力を育む。	①生徒がICT機器を活用して学習に取り組む。②グローバル人材として、国際的な資質・能力を育成する。	①ICT推進WGを中心にICT機器の活用に向けて施設面で問題解決を図る。②海外学校との交流など、総合的な時間などの活用を生徒の育成を図る。	①ICT推進WGを中心にICT機器の活用に向けて施設面で問題解決を図る。②海外学校との交流など、総合的な時間などの活用を生徒の育成を図る。	①ICT推進WGを中心に3学年すべてのH R教室にプロジェクター、遮光カーテンを設置することができた。②1年生全員がオンラインで海外の学生と交流を持つことができた。2年生では留学生との交流を行い、今後、外部講師を招いての講演会も実施する予定。	①ICT機器の拡充に努めるとともに、生徒がICT機器を活用して主体的に学習に取り組む授業づくりを開発しながら進めていく。②オンラインで実際に交流できるような方法を検討する。	①高校生ならではの授業が展開されており、端末を活用した授業はとって有意義である。②オンラインでの交流の対面をすすめてほしい。	①すべてのH R教室にプロジェクター、スクリーン、遮光カーテンを設置し、ハード面におけるICT活用の授業環境を整えることができた。②1年生全員がオンラインで海外の学生と交流をもち、2年生は留学生と外部講師を招いてグローバル講演会を行うことができた。	①生徒が授業においてPC 端末を有効に活用してより深い学びができるようにするための授業改善に取り組む。具体的には各教科でPC 端末を活用した実践授業を増やし、それを教員間で共有化するなどの取り組みを進める。
	①豊かや人間性コミュニケーション能力を育む。②生徒一人ひとりの理解を深め、支援と健康を促す。	①生徒が主体的に活動し、新たなアイデアを表現する。②学年・グループ運営の場面で生徒と共有し、生徒の成長を促す。	①生徒が主体的に活動し、新たなアイデアを表現する。②課題のある生徒に職員が協力し、必要な支援を行う。健康に関する発信活動を通じて生徒自身が正しい知識を得るようサポートする。	①生徒が主体的に活動し、新たなアイデアを表現する。②課題のある生徒に対して共有し、必要であれば外部と連携する等、適切な支援ができた。③健康観察等を通じて「ほけんだより」などの生活サポートができた。	①行動制限の緩和により行事が復活し、数年間実施できなかった新しい形での企画と運営が多くなった。②課題のある生徒について、学年やグループや学年保健室の共有の流れている。まんなだよりを定期的に発行し、生徒自身に健康を得るようサポートできた。	①行動制限の緩和により行事が復活し、数年間実施できなかった新しい形での企画と運営が多くなった。②医療機関と連携する必要がある。③保健室の共有の流れている。まんなだよりを定期的に発行し、生徒自身に健康を得るようサポートできた。	①中学校で行事を経験していない生徒たちのために行事が活性化していることは評価できる。②コロナ禍で人と人のコミュニケーションの取り方を経験していない生徒のためにも、教育相談体制が充実していることは評価できる。	①スポーツ大会の企画に向けて、既存の種目構成ではなく、新たな種目の実施と生徒の現状に合わせたルール改訂を行った。合唱コンクールも時程や入場数に工夫をし、3年ぶりの外部施設開催を実施した。②課題のある生徒について、教育相談 CO を中心に、学年やグループ、保健室との密な連携ができ、SC との振り返り時間の固定も効果的であった。「ほけんだより」は、イベント前は臨時でも発行するなど、生徒自身に健康面の知識を得るようサポートできた。医療機関や児童相談所など関係機関と連携する事例が増えており、対応が多岐にわたる。	①来年度前半に控えている体育祭や平沼祭などの大きな学校行事に向けて、今年度のうちから早め早め準備を進め、新年度が始まってからでもスムーズに運営が進むように、引継ぎを丁寧にし、生徒の活動を支援する。②事例を整理して、SSW の対応が必要なケースがあれば支援を依頼する。また、学年全体で共有し、連携できるようになっているので、学校全体での共有を増やしていき、学校全体での理解と支援を考えるようにする。

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月15日実施)	総合評価(3月24日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
進路指導・支援	①生徒が自ら進路を開拓する力を培うとともに、第一希望の進路を実現する。	3年間を通じた進路指導的進路を見出し、その進路を実現するための実践を行う。	①卒業生の進路や話や会など、キャリア教育の充実を図る。 ②Hi-ゼミにおいてハイレベルな学習スキルを養い、応用力の育成を図る。また、外部模試において全員受験模試の他、希望型模試の参加の意義を唱え生徒を増やすことと実践力の向上を図る。	①入学時の社会的自立に必要な力と身につけたと思う生徒の割合が80%を超えたか。 ②校内模試において国数英の学年平均偏差値が55を超えたか。また、国数英全体の偏差値60を超える生徒が、各学年50名以上になったか。受験結果において、国公立大学現役合格者40名以上、早慶上理35名以上、GMARCH160名以上を達成できたか。	①各種講演会は予定通り実施している。成果については、魅力特色アンケート結果によると85.3%の生徒が身につけたと回答していた。 ②最新の模試では、12年67名、3年47名、3年74名(国社英、数理英の合計)の結果である。	①学年ごとの新たな評価方法を検討する。 ②Hi-ゼミが3年目を終える中で、実施方法について、再検討が必要がある。	生徒への進路指導やキャリア教育が充実してきた結果として、主体的に学習に取り組む生徒が増えている。評価できる。	・3年生1月に進路指導の授業を実施し、参加率が低く、生徒のモチベーションが低い。 ・総合型入試が増え、小論文を課する生徒もふえるため、小論文対策を行っていく。	・3年生1月に進路指導の授業を実施し、参加率が低く、生徒のモチベーションが低い。 ・進路グループで小論文を行うとともに、業者による小論文対策を行う。
地域等との協働	P T A やの連携を推進する。	P T A との連携を推進する。地域貢献活動の推進を図る。	コロナ禍におけるP T A 活動の促進を図る。体育祭、文化祭、交流活動、P T A ボランティアなどの既存の活動を活性化させる。	コロナ禍におけるP T A 活動の促進を図る。体育祭、文化祭、交流活動、P T A ボランティアなどの既存の活動を活性化させた。	ペットボトル飲料を購入する機会を増やす。また、文化祭ではペットボトル飲料の販売を中止し、好評であったP T A 成人委員会では、体験作りを実施する機会を増やした。	P T A との連携を推進する。現在、P T A 役員を兼ねて、企画する。P T A 役員を兼ねて、企画する。P T A 役員を兼ねて、企画する。	地域社会と連携を図る。清掃活動やイベントなど、地域貢献活動の推進を図る。	P T A 活動の推進を図る。地域貢献活動の推進を図る。	アンケート調査の結果、詳細な確認がとれない部分がある。オフレコでの確認を行い、保護者・学校の連携を図る。
学校管理 学校運営	①大規模災害に備え、職員が協力して体制を整える。 ②生徒とうまく向き合うための体制を整える。	①大規模災害に備え、職員が協力して体制を整える。 ②業務分担や作業の効率化を推進する。	①大地震を想定し、生徒自身が避難できるか、また、危険箇所が認識できているか。横浜市との協定細則に基づく避難所運営のマニュアルを整備する。 ②勤務時間管理システムや作業の効率化を推進する。	①生徒自身が、避難経路および周辺の危険箇所を理解できたか。補助的避難所の避難所運営マニュアルを教員に周知できたか。 ②ストレスチェックにおいて満足度、充てる割合が80%を超えているか。	①学校全体で大地震を想定した避難訓練ができた。また、DIG やハザードマップを使って身の回りの危険箇所を認知させた。避難運営マニュアルは改訂版を策定中である。 ②職員同士の情報共有意識が高まった。	①津波を想定した避難訓練をどうするか検討が必要。避難運営マニュアルを策定し、全体周知を行う必要がある。 ②職員からの相談体制の確立や、職場の雰囲気づくりを推進する。	①避難訓練の実施等については評価できるが、さらに浸水ハザードマップを活用した避難訓練を取り入れ、生徒に対して本校が浸水する可能性があることを周知してほしい。 ②働きやすい職場環境の整備は継続してほしい。	①避難確保計画を職員に周知・確認し、関連して職員によるDIGを行った。今後は避難確保計画に基づき近隣住民と合同での訓練をどう行うかが課題である。 ②企画会議で有意義な議論ができた。業務分担の均等化に努めるとともに、特定の職員に業務が集中しないようにグリーディングなどの情報共有体制を確立する必要がある。	①これまでの大地震や津波を想定した訓練を続けるとともに、台風や大雨など、新たな災害についての訓練や、近隣住民との合同の訓練について検討する。 ②どんなことでも相談できる雰囲気を職員室に広げ、組織で業務を体制を向上させる。